

# 宮崎大學二月份生活報告書

四年乙班 蔡尚文

まず日本語の授業について特に問題はありません。授業で先生が色々なことを私たちに考えさせて、日本事情や世界事情について質問を作ったり、グループでディスカッションしたりしていました。日本語の勉強をする意欲を引き出す授業構成は素晴らしいと思います。

日本語の授業以外にマーケティング論や国語学などのクラスも行きました。そのクラスの中で最も大きな挑戦は専門的な用語と日本語の移り変わる歴史を知ることでした。ほかに韓国語の授業も二学期に受けましたが、それは後半の授業なので、初心者には少々難しいかと思います。例えば、選択科目を一学期で前半と後半を一緒に作るような措置を取ると、勉強したいけれどまだその授業受けてなかった人にとっては莫大な恩恵だと思います。

地域学部生との交流はチューターと国際寮で知り合った人のみでした。それ以外は授業で話せる機会がほとんどありません。

んでした。しかし指導先生が計画したプロジェクトのお蔭で門川町で地元の人と交流することができました。日本伝統的な文化や日常生活など魅力的な一面を肌で感じられ、またどういう手段で地方の情報を外に発信する方法も身に付けることができました。

色々な日本人と知り合って、みんなもよく優しく接してくれますが、どこか日本人のグループに入りづらい雰囲気がありました。もちろんすごく仲良しになってくれた日本人もいました。大切な一年間なのにいつも付き合ってくれたり、大変なときも助けてくれたりして、とても感動しました。日本にいる友人たちがいるからこそ、私の留学生活が充実しました。

最後に、宮崎での生活は全体的に良かったですが、とても不便なところもあります。それは交通です。バスの便は少なく、値段が高いです。また、駅に行くためには、学校から二十分ほど歩かなければならず、遠いです。それに高千穂など観光地までの移動手段も厳しいです。それを改善すれば、若い世代の人たちも自分の故郷で働きたくなるかもしれないと思います。